



第4回



# 防災コンテスト

## 受賞作品集



防災コンテスト



# 「第4回防災コンテスト」

## 概要

「防災コンテスト」は、「e防災マップ」及び「防災ラジオドラマ」の制作と活用を通じて、災害に強い協働型の社会構築を目指して開催しているものです。

主催  
NIED  
独立行政法人  
防災科学技術研究所

後援  
文部科学省  
内閣府  
Cabinet Office, Government of Japan

協賛  
NTT空間情報

## 日程(第4回)

申込開始  
2013年(平成25年)  
6月1日(土)

応募締切  
2013年(平成25年)  
12月20日(金)

結果発表  
2014年(平成26年)  
2月上旬

表彰式・シンポジウム  
2014年(平成26年)  
3月8日(土)

## 受賞作品

参加グループ：80グループ（e防災マップ53グループ、防災ラジオドラマ27グループ）

### e防災マップ

インターネットを使ったマップ作成システム（eコミマップ）を利用し、地域の防災資源や危険箇所、災害時の対応や日頃の防災活動などを地図に表したものです。

- ・最優秀賞 『千鳥地区防災マップ』－緑陽コミュニティ（愛知県東海市）
- ・優秀賞 『亀山防災マップ』－井田川小学校（三重県亀山市）  
『吉良・白浜地区防災MAP』－吉良高等学校（愛知県西尾市）  
『3.11からの七ヶ浜の復興の記憶』－七ヶ浜町社会福祉協議会（宮城県七ヶ浜町）  
『津波ハザードマップ』－防災本舗（静岡県沼津市）  
『元街っ子防災家族会議のためのマップ』－元街小学校PTA成人教育委員会（神奈川県横浜市）
- ・奨励賞 『アカザ隊防災マップ』－水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊（山口県防府市）  
『石巻語り部マップ』－一般社団法人みらいサポート石巻（宮城県石巻市）  
『大雨時に気をつける道路や場所と安全な場所』－下富岡地区（新潟県長岡市）  
『通学路における災害時の一時避難マップ』－サザン支えあい協議会（埼玉県鶴ヶ島市）
- ・学生奨励賞 福岡工業大学森山ゼミグループ（福岡県福岡市）

### 防災ラジオドラマ

地域の防災に関する課題や災害時に起こりうる事態と、その改善につながる対策のアイデアなどを、時間の流れに沿って物語形式に整理したものです。

<ドラマ部門>

- ・最優秀賞 『すぐそばにあるもの』－江戸川女子中学校放送部（東京都江戸川区）
- ・優秀賞 『今、私たちに出来る事』－宇城久ドラマプラグイン（京都府宇治市・城陽市・久御山町）  
『防災拠点 冬・地震編』－愛知産業大学三河高等学校放送部（愛知県岡崎市）  
『防災文化祭』－かえつ有明中・高等学校（東京都江東区）
- ・特別奨励賞 『被災地が語った自主防災』－箕面自由学園高等学校防災課（大阪府豊中市）

<脚本部門>

- ・審査員特別賞 『あたりまえ防災』－東金特別支援学校（千葉県東金市）
- ・優秀賞 『水害から10年目の恐怖』－絆プロジェクト（新潟県長岡市）  
『スポーツ少年少女のSAIGAI防衛隊！』－町田市テコンドー協会（東京都町田市）  
『竹灯り街道イベントに台風がやってきそう』－みしまライトアップ実行委員会（新潟県長岡市）  
『東海地震後の余震や生活に関する防災に注目したこと』－埼玉東地区防災有志団（埼玉県越谷市・春日部市）  
『残るもの 始まるもの』－水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊（山口県防府市）
- ・奨励賞 『虹色の漣 特別編』－七ヶ浜町社会福祉協議会（宮城県七ヶ浜町）  
『僕たちに今できること』－箕面自由学園高等学校防災グループ（大阪府豊中市）

## 審査委員会（敬称略・写真は左から記載順）

### ■ 審査委員長

中川 和之 時事通信社 解説委員

### ■ 審査委員（50音順）

白田 裕一郎 防災科学技術研究所 災害リスク研究ユニット プロジェクトディレクター

金納 聡志 内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（事業推進担当）付参事官補佐

千野 秀和 NHK高知放送局 放送部アナウンサー

長坂 俊成 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科 教授

西村 敏彦 一般財団法人損害保険協会 生活サービス部 部長

早川 典夫 星崎学区連絡協議会 防災担当

丸山 秀明 文部科学省研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室長



## 審査委員の講評

第4回防災コンテストでは、全国から80グループの応募（e防災マップ：53グループ、防災ラジオドラマ：27グループ）があり、自主防災組織や自治会をはじめ、生徒会やPTAなどの学校関係のグループ、NPOや福祉団体、さらにはスポーツ団体など、多様なコミュニティからの参加がみられた。地震・津波、水害、土砂災害などによるさまざまな自然災害リスクに対し、危険箇所の確認にとどまらず、子供の安全な避難、要援護者や帰宅困難者の支援、被災経験の記録や伝承など、防災マップやラジオドラマづくりを通じて具体的な地域防災活動につなげるための取組みが目立った。また、大学や高校など学校活動の一環として、まとめて複数の応募があるのは心強いが、コンテストに応募する作品をみんなで厳選して仕上げるというような取組みを期待したい。

### ■ 審査の視点

- ・地域の災害特性や防災対策の現状、地域課題について調査し理解していること。
- ・地域のさまざまな関係者と協力しながら作品をつくっていること。
- ・作品を活用し、地域の様々な関係者とコミュニケーションを図っていること。
- ・地域防災上の新たな課題や改善につながるアイデアが含まれていること。
- ・地域防災上の現状を見直し、新たな防災の取り組みにつながる提案となっていること。
- ・作品として優れたもので、作品に含まれているメッセージが地域に伝わること。



審査会

受賞作品及び各作品に対する審査委員の講評につきましては、下記のサイト、または、インターネット検索サイトにて「防災コンテスト」で検索してください。

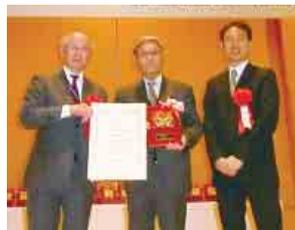
**防災コンテスト公式サイト** <http://bosai-contest.jp>

## 表彰式・シンポジウム

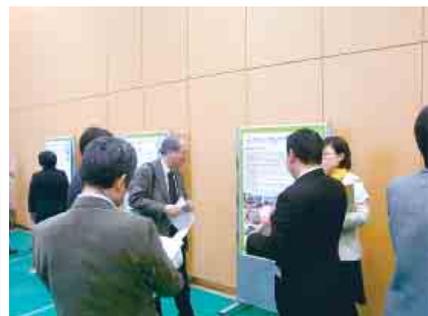
2014年3月8日（土）、防災科学技術研究所にて「第4回防災コンテスト表彰式・シンポジウム」を開催いたしました。受賞団体・審査員を始め、NPO 団体関係者、防災活動関係者、メディア関係者、一般参加の方などたくさんの方にご来場いただきました。



受賞グループ（左：e 防災マップ、右：防災ラジオドラマ）



「第4回防災コンテスト表彰式・シンポジウム」では、各受賞作品の紹介と審査員の講評に加え、各作品をポスター展示し、作品の制作過程で得られた防災活動の知恵、今後の活動などについて、参加グループ間の活発な交流と意見交換が行われました。



交流・意見交換会

## 表彰式・シンポジウム

各受賞グループの紹介や作品のPRポイントを発表していただきました。これを受け、審査員より、それぞれのテーマに対する活動や作品の講評とアドバイスが送られました。

### e防災マップ



#### 審査委員の講評

これまでに比べ、参加登録から作品応募までの活動が詳細に記録されており、地域の関係者との話し合いや防災まちあるき、避難訓練の実施など、多様な防災活動が確認できる。中には、年度をまたいで継続的に防災活動を展開しているグループや、防災マップをもとに防災ラジオドラマの作成にチャレンジしているグループもみられる。また、小中学校区を単位とした複数コミュニティの協働による防災マップの作成など、地域防災活動に取り組むべき単位も意識し始められている。

今回のコンテストでは、防災に関連するあらゆる情報を1つの防災マップにまとめるのではなく、明確な利用者や利用目的に応じて、情報を整理した防災マップづくりがみられ始めている。防災対策を検討したうえで必要な情報を選択しマップに掲載する、つまり、これまで多かった「足し算の防災マップづくり」から、「引き算の防災マップづくり」の段階に来ている点を特筆したい。

### 防災ラジオドラマ



#### 審査委員の講評

コンテストの回を重ねるごとに、ラジオドラマという作品づくりに特化せず、インタビュー調査や文献などから地域防災に関する専門知や経験知を取り込み、地域の災害特性や起こりうる被害を想定したうえで取り組むという本コンテストの主旨を十分に理解したドラマづくりが浸透してきている。また、防災の意識啓発のメッセージが明確かつ伝わりやすい作品、ドラマを聞いた本人がどのように行動すればよいかを考えさせる作品、地域住民の被災経験を広く共有しようとする作品など、目的を明確に設定し、伝えることを重視した作品が多くみられている。

脚本部門では平時の様々な地域活動を行っているグループが参加してきているが、ドラマ部門では音声収録といった技術力を伴うため、学校の放送部を中心としたグループによる参加が多い傾向にある。今後は、コミュニティ放送局など地域に存在する様々な関係者を巻き込みながら、ラジオドラマづくりを介した地域の協力関係づくりを期待したい。



第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



愛知県東海市（地震）

緑陽コミュニティ / 千鳥地区防災マップ

## 作品・活動ポイント

- 0m 地帯で地震・液状化・津波の危険度が高い、千鳥地区をモデル地区として e 防災マップを中心に防災・減災活動に取り組んだ。
- 第 1 ステップは、コミュニティの「調査研究事業」として取り上げ、活動した。ワークショップ形式で小人数で顔見知りグループのため多数の意見と本音が出た。①「防災マップをつくろう」、②「防災組織を見直そう」に絞り取り組む。
- 第 2 ステップではワーキンググループを編成しテーマの具現化。①は e コミマップの「まちあるき」の調査で始まり、推奨避難経路の実査・確認の「まちあるき」で完成、②は自主防災規約・組織図を完成、運営マニュアルは完成間近。
- 千鳥自主防災会の立ち上げは「千鳥地区盆踊り実行組織」を活用し、地区町内会長経験者を中心としたメンバーで組織化した。規約では町内会長終了後 6 年間継続して重要な部門を担当してもらうこととした。これは他地域の自主防災会が組織はあるが活動は停滞・低調化している団体が多数見受けられ、これらの問題点を解消するための組織とした。
- e コミマップでは、「防災資源情報」（避難所施設、AED 設置施設等）の写真入り詳細データの表示、指定避難所までの推奨避難経路の表示、地域内の標高差を色分けで表示など。オプション・マップとして「防犯灯マップ」を作成。



まちあるきの様子



平成 25 年度第 1 回  
ワークショップまちあるき



緑陽小学校と情報交換



会議の様子



消防署を訪問して  
情報交換



千鳥地区防災マップ

## 評価・期待ポイント

- 2 つの町内会を中心とした地域間交流や、大人と子供を交えた世代間交流など、多様な活動を通じた防災マップづくりがなされている。
- 伊勢湾台風で大きな被害を経験した地域だからこそ、多様な主体が協働で災害リスクをなくそうとする目的意識が見られる。それが地域コミュニティの活動実態となり、作品や活動記録に十分反映されている。
- 伊勢湾台風の被害実績図を参考に、津波・水害を想定した避難行動に必要な情報を整理しシンプルに表現している。
- 津波発生に対する避難路を示しているが、避難のとき、液状化、火災、家屋倒壊など、同時に起こりうるほかの災害リスクに対する情報を加えることにより、避難路の安全性の判断がしやすくなる。
- 本マップを活用しながら、災害時要援護者の避難対策を検討し支援体制の仕組みをつくるなど、外部の知恵も借りて今後の地域防災活動への展開を期待したい。
- 橋上にある大きな三角形には、説明を入れると、何を示しているかが伝わりやすくなる。





第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



## 三重県亀山市 (地震・水害) 井田川小学校 / 亀山防災マップ

### 作品・活動ポイント

- 井田川小学校区は旧東海道沿いの古い町と小高い山を新興住宅に開発した地域。
- 古い町並みは河岸段丘の底であり小河川の氾濫が数回繰り返されている。
- 水没地域が通学路であり生活道路でもある。
- 児童の安全と安心のためのマップを制作。
- 井田川小学校 4 年生 124 名が「井田川小学校・学校防災デー」にて発表のための『学校区マップ』の制作を通じて全校生徒と教師、父兄、地域自治会、住民と共に「安心、安全」を共有すること。



タウンウォッチング



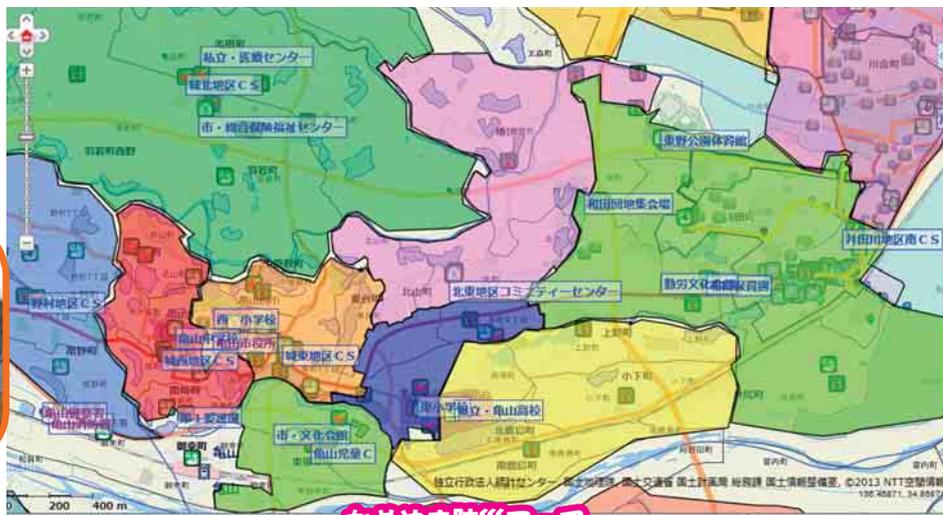
児童引渡し訓練  
(待機中!!)



DoChubu 名古屋  
つながるマップ研究会



地区防災マップ作成



かめやま防災マップ

### 評価・期待ポイント

- 地域防災に関する資料を収集し、学校区内の地域住民と情報を共有しながら訓練を実施するなど、活発な防災活動を行ったうえで防災マップづくりがなされている。
  - 次世代の地域防災を担う地域の子供たちに防災意識を持ってもらう活動を行っている。
  - 水害が発生した際、現在位置に応じて向かうべき安全な避難所が明確に表示されている。
- 
- 当地域では、災害に関する専門知としてさまざまなハザードマップが公開されているので、これらの情報を活用したうえの現地調査や検証を行うことが望ましい。
  - このマップを活用し、地域内のほかの学校や地域住民など、多様な地域コミュニティからの情報を集め、より実用的なマップに仕上げることを期待したい。





第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



## 愛知県西尾市 (地震・津波) 吉良高等学校 / 吉良・白浜地区防災 MAP

### 作品・活動ポイント

- 愛知県立吉良高等学校は、三河湾に面した立地。
- 目の前に堤防があり、津波への備えが必要な場所である。
- 毎年、近くの山への避難訓練を実施していますが、いざという時に備えて、避難場所や避難経路、危険な箇所などを記載した防災マップを作成して、災害から身を守ることを考えた。
- 吉良高校から避難する山(正法寺山)までの間に、小学校や保育園があります。助け合って避難できるような体制をつくらなければならない。
- また、堤防が壊れた場合に、どの程度の浸水被害が予想されるかを知ることのできるマップにした。



西尾市吉良地区の海岸を調査



吉良・白浜地区防災 MAP



創立50周年記念式典後  
「吉良高校の津波防災」に  
ついての研究発表

### 評価・期待ポイント

- 地域の災害に関する専門知や過去の災害経験から得られた地域の災害特性を十分調べており、模範的な防災活動である。
  - 津波災害時の避難といった目的と対象範囲が具体的に設定されている。
  - 避難場所が明確に示されており、避難者のユーザビリティを意識したマップづくりがなされている。
- 
- この地域では、災害に関する専門知としてさまざまなハザードマップがすでに公開されているので、これらの情報を活用したうえの現地調査や検証を行うことが望ましい。
  - このマップを活用し、地域内の他の学校や地域住民など、多様な地域コミュニティからの情報を集め、より実用的なマップに仕上げることを期待したい。





第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



宮城県七ヶ浜町 (津波)

七ヶ浜町社会福祉協議会 / 3.11 からの七ヶ浜の復興の記憶

## 作品・活動ポイント

- 大津波は発生頻度がまれで世代交代を重ねるうちに防災意識が薄れることが指摘されている。
- 実際お話を聞かせていただいた高齢者の中にも「チリ地震のときはここまで来なかったから」という声も多く聞いた。
- そのため、今後も発生するであろう災害から身を守り被災を軽減させるためには、東日本大震災の苦い経験を後世に伝承していく取り組みが必要と考えて今年度のテーマを東日本大震災のアーカイブとした。
- マップ上には七ヶ浜町のハザードマップ、東日本大震災の写真など約 150 枚と活動記録には震災の証言を記入。



東日本大震災の苦い経験



後世に伝承していくことがテーマ



3.11 からの七ヶ浜の復興の記憶

## 評価・期待ポイント

- 地域が受けた災害の記録を地域が主体となって残すという、災害アーカイブの理想的な姿を示している。
- 被災状況に関する貴重な写真をマップ上で活用する記録方法を提案し、被災当時の状況がリアルに記録されている。
- 被災状況に関する情報に加え、地域の復興過程が地図に示されており、見る人と災害経験を共有できるマップを作成している。
- マップに登録している被災写真に日付を示したり、被災証言内容の概要を示したりするなど、震災の記録マップとして情報掲載の仕方を工夫することによって、より伝わりやすいマップになる。
- このマップを地域住民や自治体に提供し、さまざまな地域コミュニティが協働したマップづくりのさらなる進化と、このマップに掲載された被災経験を活用したこれからの地域防災活動への貢献を期待したい。



第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ

## 静岡県沼津市（地震・津波） 防災本舗 / 津波ハザードマップ

### 作品・活動ポイント

- 昨年は沼津市立西浦小学校の校区内に特化した、児童およびそれを取り巻く保護者を中心に地震津波など自然災害と地域防犯等を意識した活動を展開してきたが、今年度はPTA から切り離し『防災本舗』と命名して近隣小中学校にも働きかけ、長井崎中学校3年生たちと協力し隣接する内浦地区の危険箇所について調査し、沼津市内浦地区と西浦地区の2つの小学校そしてその中間に位置する長井崎中学校をe防災マップにて横串を入れることができ、2年目にしてやっとスタートラインに立つことができました。
- ハザードマップの完成度としては、思い描く全体像とはまだまだかけ離れているがコツコツと地元を巻き込みつくり上げている。
- 沼津市立西浦小学校と沼津市立内浦小学校の2つの小学校と沼津市立長井崎中学校を【e防災マップ】を「横串」として繋ぐことができた。
- 3校のe防災マップの絆はまだまだ内容・活動ともに未完成だが、子供を持つ親目線と地元小中学生の協力で地元ならではの着眼点で、行政ではできない「made in 地元」を武器に活動している。西浦小学校では、ランドデザインとして「安全安心な学校<連携・情報>」に『e防災マップの活用と避難訓練の充実』として活用していただいている。



e防災マップを中学校へ



e防災マップを小学校へ



【静岡新聞 10月12日朝刊】に  
この活動について記載いただきました



津波ハザードマップ

### 評価・期待ポイント

- 近隣の小中学校とともに地域の災害に関する継続的な調査を行い、行政や地域住民との話し合いを通じて情報を提供するなど、活発な地域活動を行ったうえで防災マップづくりがなされている。
  - 目的、活動、資料収集、現地調査、いずれをとっても、非常に熟慮・検討・議論されており、それが作品にしっかり表れている。
  - 災害時に必要な対応ごとにマップをつくり分け、表示するコンテンツ、表示するレイヤの整理など、GISとしての特性を活かした防災マップづくりを徹底している。
- 
- 地震の揺れが収まってから津波が襲ってくる時間を考慮し、マップを活用した避難訓練を通じて避難ルートの再検討を継続することが望ましい。
  - 南海トラフ地震の将来の発生時期を見据えて、持続的なマップ更新の方針や体制を検討しながら、さらなる地域防災活動の展開を期待したい。



第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



神奈川県横浜市 (地震・津波・土砂)

元街小学校 PTA 成人教育委員会 / 元街っ子防災家族会議のためのマップ

## 作品・活動ポイント

- 登下校時に大地震が起きた際に、危険を回避しながらその時の状況に見合った避難先へ向かうにはどうすべきか? 子供と保護者を、まちあるき、防災家族会議、「わが家の防災シミュレーション」へと導くための地図。
- 学区域内の都市計画基本図、地域のハザードマップより抜粋した情報と基本通学路をベースに迂回路に良いと思われる道、一時的避難に良い場所を入力した。
- イラストを多用し小学校低学年、外国籍の保護者や児童、および外国につながる児童にもわかり易く、地図に興味を持てるように作成。地図上部の「通学路や町を歩いてみよう」とエリア別の注意事項をチェックすることで、自分自身で危険箇所や避難場所や避難ルートを発見できるようにした。
- 防災マップに「わが家の防災シミュレーション」をプラスしたこと。
- 共有できる防災情報のマップはひとつであるが、各家庭の状況に応じたシミュレーションを加えることにより、独自のオリジナルマップが全児童数分作成可能となる。これらを活用しながら自分で考えることが「自分の命は自分で守る」という能力を身につけることにつながる。母親の「子供を守りたい」という強い思いから、より多くの児童や保護者に防災の必要性を浸透させることを、何よりも大切に活動を続けてきた。
- 出来上がった1つの想定に縛られることなく、さらに考え続けることで、防災意識の維持向上につなげたい。



校長先生と打合せ



山下町防災訓練



まちあるきの様子



元街っ子防災家族会議のためのマップ

## 評価・期待ポイント

- 地域住民や行政と連携を取りながら必要な情報を集め、さらに現地調査や防災まちあるきを行い、それが作品と活動記録に十分表れている。
  - 地域の災害リスクはもちろんのこと、目的の検討、資料収集、現地調査など一連の活動を行う中で、情報過多に陥らないような整理がされている。
  - 指定された避難所だけでなく、避難できる候補の場所も示している点は実用的である。
- 
- 地震と津波の最悪な被害想定を前提にしているが、本マップを活用した防災活動の際は、想定に幅があることを丁寧に説明する必要がある。
  - 今の子供たちを守ることに加え、長期的なまちづくりにつながる活動が望ましい。
  - 学校を中心にほかの地域コミュニティと連携した活動と、子供の視点も取り入れたマップのさらなる更新を期待したい。



第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



## 山口県防府市（水害）

水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊 / アカザ隊防災マップ（ハザードマップ初心者ママのために）

### 作品・活動ポイント

- ハザードマップを知らない初心者のママのために、育児に役立つ情報も盛り込んだハザードマップにした。
- まずは、ハザードマップを知ってもらう、見てもらうことを目標にしている。
- ハザードマップを知らない、見たことがないというママに、いきなり浸水域を言っても伝わらないと思ったので、ハザードマップに小児科・公園を入れた。
- ママが知りたい情報を盛り込むことで、育児マップにも使ってもらえると考えた。また、防府市は車での移動が多く、市内のどこで被災するかわからない。このハザードマップで、小児科などを目印にして、避難所へ移動してもらえるといいなと思った。
- 避難所を知らない方も多かったので、まずは自主避難できる、公民館をポイントした。また、過去の被害もわかる範囲で記載した。



子育てサロン  
秋まつりに参加



乳幼児と母親向け  
ワークショップを開催



平成 25 年度  
ほうさい甲子園山口発表



降雨体験：講義



アカザ隊防災マップ

### 評価・期待ポイント

- 対象としている災害リスク、災害時の想定される事態、そのために必要な対策を体系的に整理し、それに基づいた持続的な防災活動を行っている。
  - 自宅だけでなく、日常生活の移動先での災害リスクを可視化している。
  - ハンディキャップを持つ人やハザードマップを見慣れない母親を対象に、実体験をもとに避難の際の課題を載せた実用的なマップに仕上げている。
- 
- 子供の目線から危険箇所や避難場所を検討し、日常的に子供にとって役に立つ施設を示すなど、子供にも必要とされる情報を示したマップを期待したい。
  - ハザードマップの情報をもとに、より適切な避難行動に結びつけられるように、マップの表現力を工夫してほしい。





第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



宮城県石巻市（津波）

一般社団法人みらいサポート石巻 / 石巻語り部マップ

## 作品・活動ポイント

- 高須賀さんは、石巻で最も被災の激しかった門脇南浜で、作中に地震にあった。
- 車で会社に引き返したが、渋滞に巻き込まれ、途中の内海橋付近で車ごと津波に飲み込まれた。
- 壮絶な避難の経験から、その後どのように生き延びたか、石巻の復興と津波の恐ろしさの伝承のために高須賀さんが「語り部」として伝えてくれた内容をもとに、このマップを作成した。
- 被災地の経験を皆が活かせる学びに昇華するため、石巻に来る方に対して石巻市民による「語り部」事業を展開中。
- 津波が残した数々の教訓を語りつくせはしないが、故郷復興への願い、さらに被災地石巻を訪れる皆さんとの「つながり」を希望の光として、語り部さんは後世への記録として伝える。



## 評価・期待ポイント

- 災害時の避難経験に関する証言内容をもとに、当時の避難箇所と災害時の行動がリアルに表現されている。
  - 被災経験者の証言をマップに示しているため、より実感を持って被災状況が理解でき、震災記録を後世へ伝達するための1つの手法となりうる。
  - 体験と語りを通じた防災活動の動機づけの可能性を秘めている。
- 
- 本マップのつくり方を展開させ、より多くの被災経験を当時の写真とともに記録していく取組みの継続を期待したい。
  - 震災の記憶を風化させないためにも、被災証言だけでなく、震災当時に撮影した写真や動画も貴重な記録として収集することが望ましい。





第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



新潟県長岡市（水害・土砂）

下富岡地区 / 大雨時に気をつける道路や場所と安全な場所

## 作品・活動ポイント

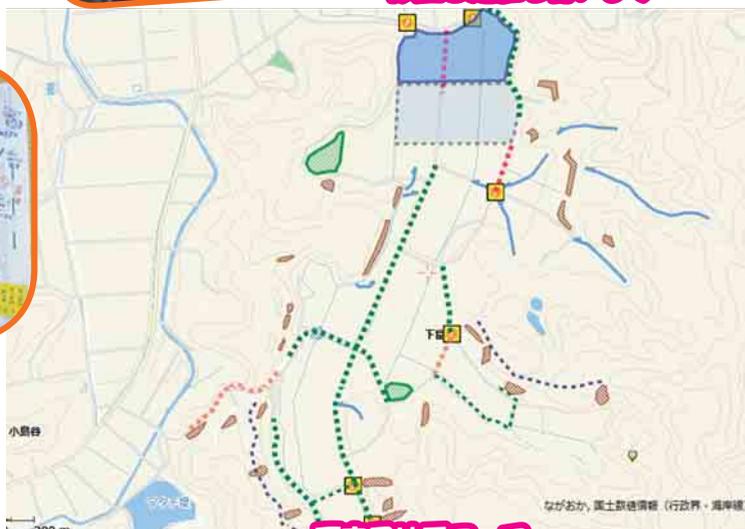
- 下富岡地区は大雨の度に冠水や中小のがけ崩れが発生。幸い今のところ人身事故はないが家屋や道路の被害は大雨の都度発生する。
- 地区はある程度広い地域に住宅が点在しており、どこが危険でどの道路は通行できなくなるのかは共有されていない。
- そこで昭和の水害まで遡った被災体験を地図に落とし込み、危険箇所と安全な道路・場所を明らかにしていく。
- とにかく広範囲にわたって中小の崖崩れが発生している。さらに昔は里山管理で使われていたが、今はあまり人が入らない山道が大雨の時は川となり、それがせき止められたりして民家の裏手にこぼれ、崖崩れを引き起こしていることも明らかにされ、山道整備の重要性も再認識した。
- また、最悪冠水で集落から脱出できないことになるが、大雨から2時間位まではそれでも通行できる道路があることも判明。山が背後に迫っている道路だが緊急時に使えることも判明。
- 広い地域内、なかなか共有できなかった土地や道路の状況を地図にまとめることができ、防災・事故防止に役立つものと思われる。



第1回WS  
地図で地域の再認識し過去の  
水害を地図に落とします



第2回WS  
先回の地図のまとめを見て  
修正と追加を行います



下富岡地区マップ

## 評価・期待ポイント

- 過去の被災経験を活かしながら災害時の危険箇所を調査し、災害時に通れる道・通れない道などの地域情報がシンプルに示されている。
  - 市役所とコミュニケーションを取りながら避難施設について検討しているため、これらの情報をもとに地域住民が具体的な避難方法を検討できる、実用性の高いマップに仕上がっている。
- 
- 水害に対し、地域の高低差がわかるように、等高線を活用したり、高さを示したりする工夫をすると、より実践的なマップになる。
  - 本マップを活用し、避難訓練の実施を通じた避難ルートと避難場所の検証により、さらなる継続的なマップの改善を期待したい。



第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



埼玉県鶴ヶ島市 (地震)

サザン支えあい協議会 / 通学路における災害時の一時避難マップ

## 作品・活動ポイント

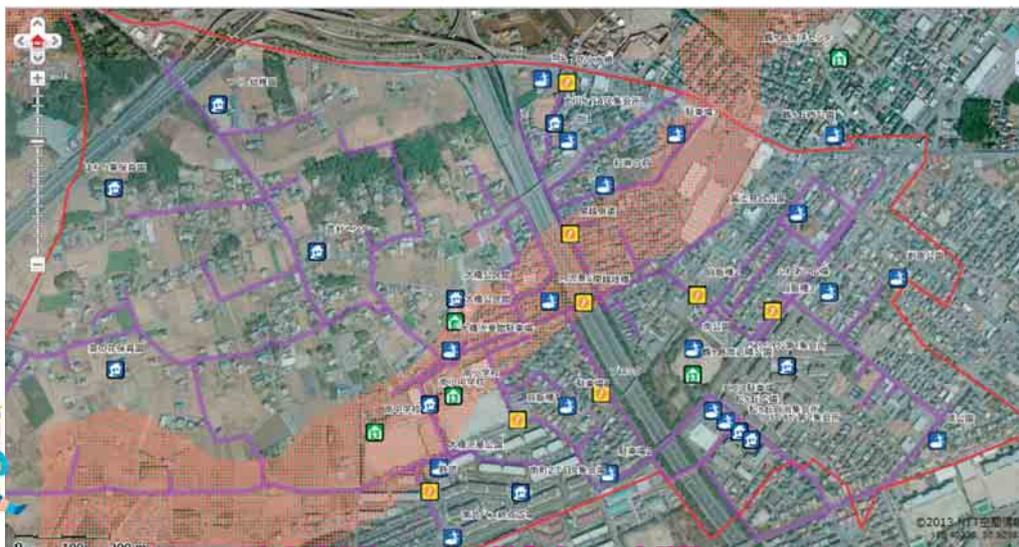
- 防災マップづくりを通じて、地域で起こりうる災害と災害時の課題を理解し、地域の現状を踏まえた対策として防災計画を検討した。
- 1. 地域の概況 2. 地域災害と被害 3. 地域の課題と対策 4. 地域の防災備蓄 5. 地域の避難体制 6. 防災マップ・リスト その過程で作成した、地域内での子供の災害時避難マップ。
- 地域で一番守るべき子供の一時避難を検討することから、次に・避難所開設、運営・外部支援の受入について、検討した結果を順次地域の人に分かりやすい目的別マップの作成につなげている。



まちあるきのようす



防災マップづくり



南小通学路における災害時の一時避難マップ

## 評価・期待ポイント

- 小学校区内のさまざまな地域コミュニティが協力しながら会合や現地調査を行うなど、継続的な防災活動がなされている。
  - 地震災害時において学校と地域が連携して児童の安全な避難を誘導するといった、具体的な対策を設定して、児童の避難に必要な情報が整理されている。
  - 今年度に改正された災害対策基本法に記載された地区防災計画の検討にチャレンジしている。
- 
- 本マップ上の避難場所に一時避難した子供の安否確認を、どのように、誰が行うかを検討してほしい。
  - 校区内の地域関係者だけでなく、自治体や専門機関などに支援を求め、全国で試行錯誤が始まるであろう「地区防災計画」作成のお手本になることを期待したい。





第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# e 防災マップ



福岡県福岡市 (地震・津波、水害・土砂)  
福岡工業大学 森山ゼミグループ

## 作品・活動ポイント

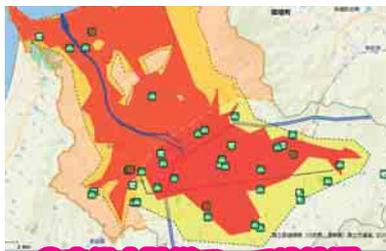
- 大学での研究・教育の一環として、学生個々が目的意識をもって8つのグループで防災マップづくりに取り組んだ。
- ①「松浦川を中心としたハザードマップ」や、②「福岡市東区防災マップ」では、現地取材・調査によりより安全な避難所、病院への経路確認等の新たな発見があった。
- ③「宗像市防災マップ・津波編」においては、PCによる地形・高さなどの事前調査に加え、現地調査による傾斜確認など、より具体的な危険性を把握する為にフィールドワークを重ねた。
- ④「行橋においての土砂崩れ危険度マップ」や⑤「三重県の地震と液状化マップ」においては、地震と液状化の関係や被害拡大域の見える化について検討を重ねた。
- ⑥「春日部市中川の水害マップ」や⑦「室見マップ」、及び⑧「藤の木地区の土砂災害及び雨害についての関連マップ」においては、増水・浸水域の見える化と共に、災害の危険性を地域住民に解り易く伝えることを目標に活動に取り組んだ。



①松浦川を中心としたハザードマップ



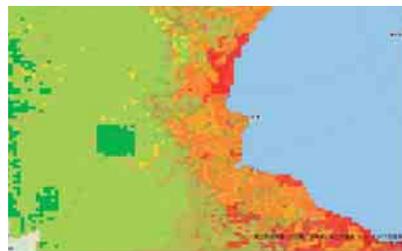
②福岡市東区防災マップ



③宗像市防災マップ津波編



④行橋においての土砂崩れ危険度マップ



⑤三重県の地震と液状化マップ



⑥春日部市中川の水害マップ



⑦室見マップ



⑧藤の木地区の土砂災害及び雨害についての関連マップ

## 評価・期待ポイント

- 大学での研究・教育の一環として、学生の一人ひとりが目的意識を持って防災マップづくりに取り組んでいる。
- 地域の災害に関する情報が十分に調査されている。
- 研究室(ゼミ)内でのコンテストを実施するなど、個人で参加した学生同士が、お互いに議論を重ねることを通じて、さらなる防災マップづくりの質的向上に期待したい。
- 地域との具体的なつながりを増やし、地域の防災活動に貢献してほしい。



第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (ドラマ部門)



## 東京都江戸川区（地震） 江戸川女子中学校放送部 / すぐそばにあるもの

### 作品・活動ポイント

- 去年母親を亡くした主人公の花梨は、学校の帰り道に友達と別れた後、地下鉄で大きな地震にあってしまう。
- 苦しい状況の中で、普段同じ電車に乗っている様々な人々と支えあい、ピンチを乗り越えながら初めて、花梨は決して自分が1人ではないということを実感する。
- 人との関係が疎遠になりつつある社会の中で、助け合うとは何か。協力とは。
- 地下鉄の駅に行き、駅員さんにインタビューをしました。実際に地下鉄の中で地震が起こった場合、私たちはどうすればいいのか、地下鉄ではどんな対策をしているのか聞きました。
- また、生徒に「どこで地震にあうと一番いやですか」とインタビューしたところ、1位は登下校中で、理由は家や学校なら安心だけど、1人ぼっちの帰り道で地震がくると怖いということだった。
- 防災は、災害が起きた時の対策も大切だが、周りの人たちと助け合い、励ましあえるコミュニケーションをとることが大切だ。



### 評価・期待ポイント

- 地下鉄で通学している学生の視点から地下鉄利用者の帰宅困難問題をテーマに選定し、地下鉄構内での被災者同士の助け合いの重要性について当事者の視点から描いている。
  - 大地震による災害を想定し、学生の地下鉄利用に関するアンケート調査と、地下鉄の駅員に災害対策に関するインタビュー調査を実施し、調査結果をもとにリアリティのある被災シナリオが表現されている。
  - 当コンテストに継続的に参加し、毎年新しい視点のテーマを選定している。さらに、その経験を積み重ね、技術力の高いドラマを制作している。
- 
- 災害時において、携帯メールと災害伝言ダイヤルのどちらがつながりやすいか調査してみしてほしい。
  - 帰宅困難の問題に対し、自宅まで歩いて帰ることができるかを、実際の距離感を持って検証すると、より精度の高い作品となる。
  - 学生として平時から参加できる地域の防災活動に資する要素を増やし、地域住民との接点や地域内での拡がりを意識した活動の展開に期待したい。





第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (ドラマ部門)



## 京都府宇治市・城陽市・久御山町（大雨） 宇城久ドラマプラグイン / 今、私たちに出来る事

### 作品・活動ポイント

- 5人の家族が、ある日起こった豪雨災害の後、ふと出会った出来事によって、自分にもできることがあるのだ、と知る。
- 昨年、宇治で実際に起きた「京都府南部豪雨災害」を元に、創った。
- なので、完全な想像ではなく、実話も織り混ぜている。



第四回 防災ラジオドラマコンテスト 優秀賞  
作品名「今、私たちに出来る事」

【概要】  
「今、私たちに出来る事」は、京都府宇治市・城陽市・久御山町で発生した豪雨災害を題材としたラジオドラマです。災害発生後、被災者となった5人の家族が、ふと出会った出来事によって、自分にもできることがあるのだ、と知るというストーリーです。

【登場人物】  
主人公の家族5人（父、母、長女、次女、長男）と、被災者となった5人の家族（父、母、長女、次女、長男）。

【あらすじ】  
ある日、京都府宇治市・城陽市・久御山町で発生した豪雨災害。被災者となった5人の家族が、ふと出会った出来事によって、自分にもできることがあるのだ、と知るというストーリーです。

【活動ポイント】  
この作品は、昨年、宇治で実際に起きた「京都府南部豪雨災害」を元に、創った。なので、完全な想像ではなく、実話も織り混ぜている。

【制作経緯】  
この作品は、昨年、宇治で実際に起きた「京都府南部豪雨災害」を元に、創った。なので、完全な想像ではなく、実話も織り混ぜている。

【制作経緯】  
この作品は、昨年、宇治で実際に起きた「京都府南部豪雨災害」を元に、創った。なので、完全な想像ではなく、実話も織り混ぜている。

【制作経緯】  
この作品は、昨年、宇治で実際に起きた「京都府南部豪雨災害」を元に、創った。なので、完全な想像ではなく、実話も織り混ぜている。

### 評価・期待ポイント

- 地域の大人と多数の学生が交わってグループを結成し、異なった世代間の協力による作品づくりがなされている。
- 学生として災害時のボランティア活動への参加は難しいといったイメージに対し、誰もが些細なきっかけで他人を支えることができるといった、学生の身近な目線からのストーリーが具体的に描かれている。
- インタビュー等を通じて、災害時の地域課題がよく抽出されているので、これらの課題に対する地域防災上の現状確認など、現実の地域防災に繋げていくような防災活動への展開と、それを通じて地域の協働の輪を広げていくことを期待したい。





第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (ドラマ部門)



愛知県岡崎市 (雪害・地震)

愛知産業大学三河高等学校 放送部 / 防災拠点 冬・地震編

## 作品・活動ポイント

- 高校の防災授業の宿題として、家庭での防災意識に関する調査をし、ホームルームで発表する。当日、家庭内での防災意識レベルは、様々である実態が明らかになる。
- 下校時間、冬型の気圧配置がさらに強まり、瞬間に雪景色に、さらに追い打ちをかけるように地震発生。雪による交通障害発生にさらに地震被害が…。一時避難施設に身を寄せる人々。隣接駅にいる人々に一時避難を呼びかけるボランティア。共助対象の災害要援護者を高校生の協力のもと救助。食物アレルギー者確認。鉄道系以外の交通網としてタクシーは…。
- 自助・共助の災害発生時初動を追っていった。
- 岡崎市藤川地区、いざというとき防災拠点として機能する道の駅【藤川宿】と東部地域交流センターが地域に設けられ1年～1年半の歳月が経った。
- 共助として岡崎市で制度化している『災害時要援護者支援制度・あんしん見守りキーホルダー』の場面を高校生ボランティアとともに動くシーンを設けたり、指定避難施設の受け入れ準備が整うまで補完的な役割を担う【藤川宿と東部地域交流センター】の動きを追った。
- 特に弱者への視点を大切にした。

【※ドラマ内の呼称は、実際と違う】



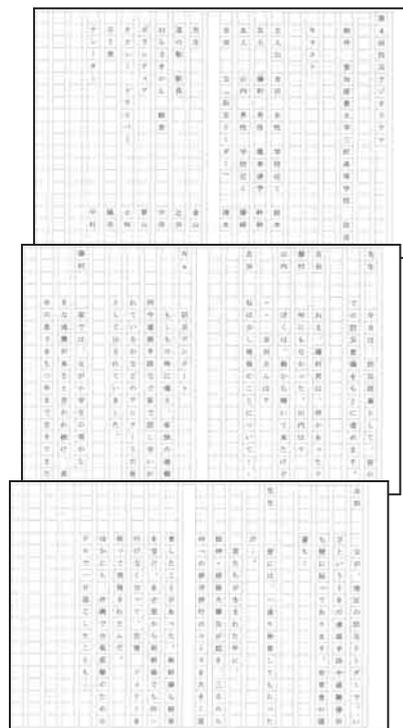
練習のようす



録音のようす



パソコンを活用して  
音声編集



## 評価・期待ポイント

- 学生としては考えにくい災害時の避難生活における要援護者やアレルギー体質の避難者の問題に対して調査をし、その結果や関係者の意見が盛り込まれている。
- 学校の授業や部活動の一環として防災ラジオドラマづくりを行っているので、地域防災活動に参加機会の少ない高校生にとって、参加のきっかけになりうる。
- 作品の制限時間内に多くの情報を取り上げているため、伝えたいメッセージが過剰な印象を与えるので、より目的を絞ったシナリオ整理の工夫をしてほしい。
- 地域で平時から防災活動を行っている方々と意見交換や情報共有を行うなど、学校関係者だけでなく、地域と協力した防災活動の展開を期待したい。





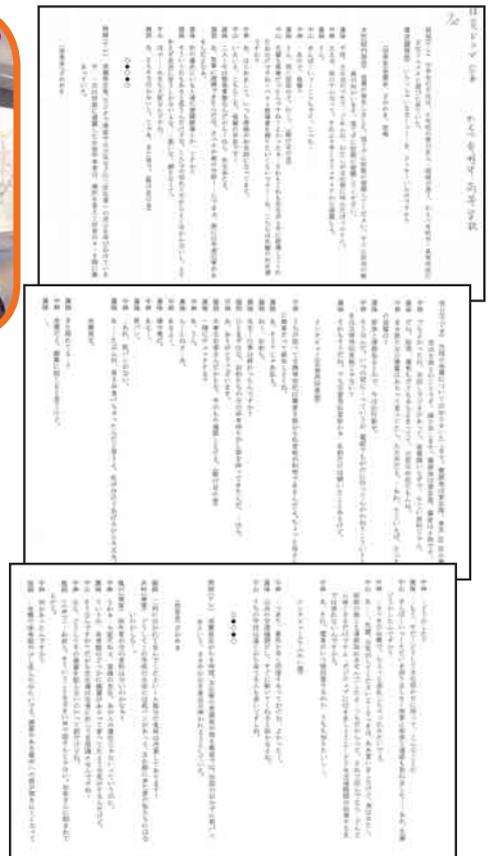
第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (ドラマ部門)

## 東京都江東区 (地震) かえつ有明中・高等学校 / 防災文化祭

### 作品・活動ポイント

- かえつ有明中・高等学校の生徒を友人に持つ主人公が文化祭に遊びに来て大きな地震にあう。
- 知らない場所での災害時の対応や連絡の仕方などを友人と一緒に経験していく。
- 伝えたい情報が多く、2部構成になっている。
- 災害時の学校や交通機関の対応を知っていざという時の準備や対応の助けにしてほしい!



### 評価・期待ポイント

- 学校の文化祭を舞台に、外部からたくさんの方が来ている時の被災といった日頃は考えられない状況の設定と、鉄道関係者に対する生の取材音声をドラマに挿入するといった工夫がなされている。
- 学校の生徒と地域のコミュニティ FM 局が協力してドラマを制作していることは、本ドラマコンテストが目指す趣旨に適している。
- 地震災害を取り上げ、地域内の防災備蓄や災害伝言ダイヤルなどをよく調べているが、地域の特徴として地震に伴う津波災害も起こりうることなど、ほかの災害ハザードの発生可能性をより調べてほしい。
- 今後は、地域の防災拠点に近接しているといった学校の位置特性を活かし、地域の防災活動に活用できるドラマづくりを期待したい。



第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (ドラマ部門)



## 大阪府豊中市（地震） 箕面自由学園高等学校防災課 / 被災地が語った自主防災

### 作品・活動ポイント

- 放送部員が岩手県大船渡へ取材へ行き被災者から当時をふりかえるお話をうかがう。
- 自主防災に対する意識の高さに驚いた部員はラジオドラマをつくって周りに伝えたいと思うようになった。
- 2泊3日で大船渡へ行き、民泊をして被災地の方へ30時間ほどの取材を行った。
- インタビューをそのまま使い、現地の当時をふり返りながら、ドラマをドキュメント風にまとめた。

大船渡へ取材に行ってきました！



大船渡市防災倉庫



いよいよ録音！



被災を振り返る

ラジオドラマの台本内容（被災地の様子やインタビューの抜粋）

被災地の様子：津波の被害は、想像以上で、津波が来た瞬間、家も壊れて、津波が来た瞬間、家も壊れて、津波が来た瞬間、家も壊れて...

インタビューの抜粋：被災者の声、当時の様子、自主防災の取り組み...

### 評価・期待ポイント

- 防災学習の一環として、東日本大震災の被災地を見学・取材した内容がそのままドキュメンタリー形式でドラマとして仕上げられている。
- 被災者にインタビューしたことによって、リアルな被災経験と災害時の命の大切さに関するメッセージが強く伝わってくる。
- インタビュー内容を素材にしたドキュメンタリー形式にとどまらず、具体的な地域の関係者が登場する防災ラジオドラマに発展できるよう継続的な活動を期待したい。



第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

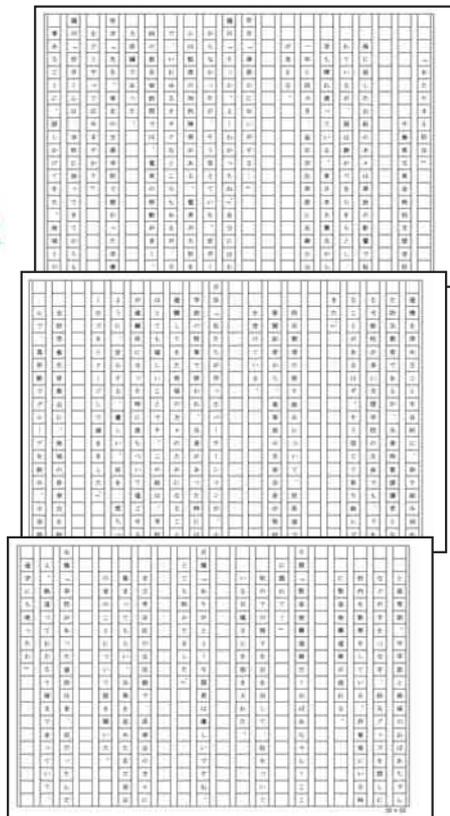
# 防災ラジオドラマ (脚本部門)



## 千葉県東金市 (地震) 東金特別支援学校 / あたりまえ防災

### 作品・活動ポイント

- 代表生徒による被災地訪問や防災をテーマとした地域との交流から学んだ知識(地域の災害史等)や経験をつなぎ、「あたりまえ体操 / COWCOW 防災バージョン」が出来上がった経緯。
- また、生徒たちの取り組んだことが地域との絆を深め、学んだことが卒業後にも活かされた様子。
- 障がいがある児童生徒のよさや個性を大切に、地域の特別支援学校や児童生徒に対する理解を深めること。
- 障がいがある児童生徒が自分の命を守り、共助の意識を持つことができるということ。
- 防災をテーマとした長寿会の方々との交流から、新たに知ることがあったり、共通の話題が見つかったりすることで、お互いにとっての学びの場になること。



### 評価・期待ポイント

- 定期的に行っている学校と地域の交流を紹介するなど、学校内の防災教育だけでなく、地域の防災拠点としての役割を十分考えている。
  - 障がいのある人もそうでない人も共に尊重しあう必要性がよく伝わってくる。
  - 震災体験や防災の心構えを歌にした体操をしながらリズムで身につけていく、また流行語や流行歌を活用して印象に残りやすいなどの工夫がなされている。
- 
- 今年度行われた地域活動の内容や特に体操シーンなど、活動内容がわかるように写真や文章で記録を残し、作品の作成プロセスもアピールしてほしい。
  - 普段から健常者が気づかない障がい者の困難要素がほかにもたくさんあると思うので、素材を増やしながらかつ継続的な活動を期待する。





第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (脚本部門)



## 新潟県長岡市 (水害) 絆プロジェクト / 水害から10年目の恐怖

### 作品・活動ポイント

- 10年前の水害で河川改修により出来た残地を利用して、今年道の駅が長岡市と見附市の真ん中に完成した。
- 毎年起こる大雨による河川の水位上昇、道の駅で働く職員が両市から出る情報に、どのように対処するかを周囲の状況を踏まえながら描いてある。
- 再び河川決壊の恐怖と風化されていく現状。
- 更に2つの行政から出る情報の受け止め方。
- これから両市民はどの様に災害と立ち向かうのかを考えさせられる。



「絆プロジェクト」発足



2011年7月30日警戒水域を超えた刈谷田川



非常食一口  
カフェ試食会



2011年8月4日水が引いた  
刈谷田川・中之島大橋の橋脚



「キスナまつり」地震体験



脚本づくり



漫画にも  
なりました!



### 評価・期待ポイント

- 災害時の記憶を記録としてよく整理しており、今後の災害に備えた教訓として有益な作品である。
  - 県境や市境など、行政対応に課題の残る場所を対象にしたのは、地域課題を明確にするうえで効果的である。
  - 作品の制作段階において、e 防災マップもつくりつつ地域の災害リスクを十分確認し、その内容を反映している。
- 
- 地域の防災活動に対し、行政との連携や住民への呼びかけなど、地域連携をさらに盛り込んでほしい。
  - 道の駅が避難所として機能できるといった、ドラマづくりを通じて得られた成果が地域にフィードバックできる仕組みづくりを期待したい。



第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (脚本部門)



東京都町田市 (地震)

町田市テコンドー協会 / スポーツ少年少女の SAIGAI 防衛隊!

## 作品・活動ポイント

- 町田市テコンドーの道場に入門している少年少女が自分たちの町を守るために立ち上がる。
- 武道・スポーツをたしなむ者は、みんなを守るべきだ!
- 子供にもできる活動は何かあるのかを考えながら師範たち大人を巻き込んで住んでいる地域で活動を開始する。
- 「スポーツ振興」と「防災」のコラボレーション。
- テコンドー道場には子供から大人までさまざまな年齢層がスポーツという目的でつながっている。
- また協会を通して全国的なネットワークを持っており、テコンドーに関わる人たちの今後の活動指針の1つになるような内容を目指した。

町田市テコンドー大会にて、  
防災・防犯に関する展示をしました!



東日本大震災の紹介



横浜市青葉区ポスター展示



防犯グッズの紹介



## 評価・期待ポイント

- 大都市において地域コミュニティの存在が薄れていく中、都市型特有のスポーツ協会を通じて地域防災に関するさまざまな人との交流活動がなされている。
  - グループとして防災活動に対してできることをよく整理し、作品として仕上げ、防災マップづくりや、防災まちあるきなど、作品の中で描いた内容を着実に実行している。
- 
- 全国のテコンドー大会や協会を通じて、ほかの地域にもこの取り組みを広げてほしい。
  - 子供から大人まで、スポーツをきっかけにした地域との連携、協働の輪がさらに発展していくことを期待したい。



第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (脚本部門)



新潟県長岡市 (台風)

みしまライトアップ実行委員会 / 竹灯り街道イベントに台風がやってきそう

## 作品・活動ポイント

- 以前防災マップをつくった竹灯りイベント。今回は実際に台風が近づき開催も危ぶまれた。
- そして、今年の実際のイベントも途中で急な雨となり見物客は避難や帰宅となった。その出来事を基にしたドラマである。
- 毎年やっているイベントスタッフの雨宿り避難等チームワークの良さ。年々増える見物客の自主判断サイン等の見直しなどが主な内容である。
- 大きな災害は起きない。
- 雨風はある線を越えたときに一気に災害になる。
- 何気ない雨や風への対応こそそのちの大きな災害を防ぐものとの考えもあり、今回初めて雨にたたられたのを機に対応を振り返り再考・架空の要素も入れて脚本化してみた。



竹灯りイベント準備に地域の  
の人たちが参加



街道には急傾斜地があります



街道の中央も  
竹灯りになります



お寺さんの竹灯り

## 評価・期待ポイント

- 地域のイベント時における災害対応の課題として、観光客の安全な避難や帰宅といった、安全確保を優先したイベントの大切さが描かれている。
- 昨年度作成したe防災マップを活用し、継続的な防災活動として、災害経験の実話を元にした教訓の記録だけでなく、記憶に残るドラマづくりを行っている。
- 「みしまモデル」と言われるぐらい、防災とイベントをつなげる防災の取り組みを継続してほしい。
- より多くの人たちにメッセージを伝えるためにも、脚本にとどまらず、協力してくれた学校の放送部と連携しながら音声ドラマに発展していくことを期待したい。



第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (脚本部門)



埼玉県越谷市・春日部市 (地震)

埼玉東地区防災有志団 / 東海地震後の余震や生活に関する防災に注目したこと

## 作品・活動ポイント

- 地震や防災に関して専門家であれば当たり前の知識 (情報) も、一般人にとっては全く知らないという知識 (情報) があり、それによって地震後に命を落とすという事があり得るという事を描いた。
- 加えて、防災というと避難の訓練はするものの、避難中の災害についての訓練はあまりされていない。
- そうしたことを想定することの必要性も訴えた。つまり避難中の避難訓練など。
- 各地で行われた学術会議 (日本地震学会、災害情報学会、歴史地震研究会、活断層学会、地震の学校など) に足を運び、一般人でも知っておくべき知識 (情報) を収集し、本作品に盛り込んだ。ストーリーの流れとして、3つの地域で、どのような事が起こり得るかということと並行して描き、未来の教訓とした。



## 評価・期待ポイント

- 近未来を想定した作品であり、ストーリー展開や場面設定などに新しい工夫がなされている。
- 災害や防災関連の学協会に参加して学習した内容をドラマに反映するなど、専門知識を積極的に活かしている。
- ナレーションとして整理されている多くの情報についても、ドラマ性を持たせて登場人物間の対話形式として描くと、より聞きやすくなる。
- 地域との連携など、防災現場での発展的な利用や交流を深めることを期待したい。



第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (脚本部門)



## 山口県防府市 (水害) 水の自遊人しんすいせんたいアカザ隊 / 残るもの 始まるもの

### 作品・活動ポイント

- あの豪雨から3年が過ぎ、山口県中部瀬戸内海に面した町。災害の復旧工事も終わり、日常生活の中では何もなかったかのような毎日が過ぎている。
- そんな時、中学生が部活動で、聴覚障がい者とコミュニケーションをとる防災サインを作成。これは災害時にも使える。そのPRもかねて夏休み防災学習会を開催し、豪雨体験装置で実際に雨の体験をし、防災サインは雨の中で使えるのか調べてみる。
- そして、もっと多くの人に災害に備えることを知ってもらいたいと決意する。
- 昨年応募した作品の続編。
- 実際にアカザ隊が活動した内容を盛り込み、子供たちが感じたことを作品に盛り込んだ。
- 子供たちの思いのつまった作品。



乳幼児と母親向け  
ワークショップを開催



子育てサロン  
秋まつりに参加



聴覚障がい者と共に学ぶ  
防災学習会の講義



聴覚障がい者運営会議



平成25年度  
ほうさい甲子園山口発表



降雨体験



### 評価・期待ポイント

- 3年前の山口豪雨に対し、時間の経過とともに風化してしまう災害経験を伝える大切さに気づかされる作品である。
- 日頃から地域で取り組んでいる聴覚障がい者とのコミュニケーションに関する内容をドラマ化し、手話サインの統一方法という具体的な防災上の課題が描かれている。
- ドラマで取り上げている世代を超えた防災活動の継続に関する難しさや課題について、具体的対策を深く追求できるように取り組みを継続してほしい。
- このドラマの続編や、音声化などを通じて地域の防災活動に発展していくことを期待したい。





第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (脚本部門)



## 宮城県七ヶ浜町 (地震・津波) 七ヶ浜町社会福祉協議会 / 虹色の漣 特別編

### 作品・活動ポイント

- 平成 23 年 3 月 11 日。鈴木さんはいつもと変わらずバスに乗って多賀城市まで買い物へ行く。
- 2 時 50 分発のバスに乗って出発を待っていた時に襲った東日本大震災、そして大津波。
- 命からがら津波から逃れた鈴木さんは見ず知らずの人たちに助けられながら息子さんと再会するドラマ。
- 平成 23 年 3 月 11 日普段と変わらない生活が東日本大震災という未曾有の災害により一変してしまった。
- 鈴木さんは当時多賀城ジャスコに買い物に行き被災したときの体験談を実際にインタビューし、社協だよりに掲載したものをドラマ用に作成。
- 来年度の小学生対象の防災教育の被災体験を学ぶために使用する予定。



### 評価・期待ポイント

- 東日本大震災の証言記録として作成された作品であり、被災経験が伝わりやすくコンパクトにまとめられている。
- 防災ラジオドラマというよりは、災害経験者の証言として高い価値がある。
- 被災経験に関する証言記録を活用して、地域関係者と協力して登場人物を増やすことにより、より伝わりやすいドラマになる。
- 被災地固有の取り組みのひとつとして、これからも継続して活動されることを期待したい。



第4回 地域の絆をつくる  
防災コンテスト

# 防災ラジオドラマ (脚本部門)



大阪府豊中市 (地震)

箕面自由学園高等学校防災グループ / 僕たちに今できること

## 作品・活動ポイント

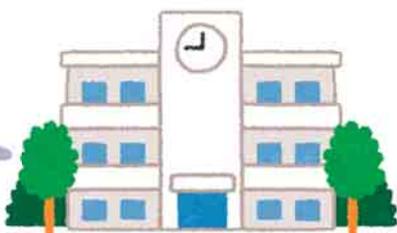
- 豊中市宮山町にある箕面自由学園で避難訓練が実施され、校内放送の回線に不具合が見つかった。
- 学校はそれを直そうとしない。翌日地震が起こり、放送が聞こえなかった場所でパニックが起こる。
- 地域の避難場所になる学校。その学校の防災対策は万全か。
- あまり地震が起こらない大阪の人たちの防災対策はできているのか。
- 身近な所に不具合はないか。不具合を見つけても放置しているのではないか。
- そんな確認をしたくてつくった作品。



グループで学校の防災設備などの情報を集め、  
問題点や課題を出し合い



いよいよ脚本化!!



## 評価・期待ポイント

- 防災機器の日ごろのメンテナンスが必要であること、日ごろから心がけなければならない点が沢山あることを示唆されている。
  - 生徒の心境がうまく伝わり、学校の先生が見落としやすいところを気づかせる作品である。
- 
- 作品の中に挙げられている災害時の課題や問題点に対し、具体的な解決方法について議論が生まれるドラマに仕上げることを期待したい。
  - 防災活動のアピールとして、防災ラジオドラマの制作過程における活動内容を記録してほしい。



## 第4回防災コンテスト受賞作品集

---

- |        |  |
|--------|--|
| ■発行日   | 2014年3月  |
| ■制作・著作 | 独立行政法人 防災科学技術研究所<br>社会防災システム研究領域<br>災害リスク研究ユニット<br>URL : <a href="http://bosai-contest.jp">http://bosai-contest.jp</a><br>〒305-0006 茨城県つくば市天王台3-1<br>Tel : 029-863-7553<br>Fax : 029-863-7541<br>mail : <a href="mailto:risk_office@bosai.go.jp">risk_office@bosai.go.jp</a> |

2014年度



地域の絆をつくる

第5回

# 防災コンテスト

確認する



地域で起こりうる災害と被害を確認します。

調査する



災害時に地域で心配な課題を調べます。

検討する



災害時の課題に対する対策を検討します。

活用する



防災に関する会合や活動に活用します。

地域の防災に役立つ情報を地図に表したもの

地域の防災に関するアイデアを物語形式に整理したもの

防災ラジオドラマ



e防災マップ

テーマ例

- 避難タイミングの判断支援
- マンション高層階での救急救命
- 要援護者の避難支援
- 登下校中の安全な避難
- 帰宅困難者支援
- 防災拠点での情報共有
- 福祉サービスの継続
- 避難所の運営

参加グループ例

- 自治会
- 自主防災組織
- 学生
- 福祉団体
- まちづくり団体
- 学校・PTA
- 地域の一般企業
- その他防災活動に組みたい方

防災活動に取り組んでみませんか？

日程

防災活動を共に取り組む仲間、災害時に協力し合う仲間との絆をつくりながら地域の防災力を高めましょう。

- 申込開始 …… 2014年 6月
- 応募締切 …… 2014年 12月下旬
- 結果発表 …… 2015年 2月上旬
- 表彰式シンポジウム …… 2015年 2月下旬

主催



後援



協賛



防災コンテスト公式サイト <http://bosai-contest.jp>

防災コンテスト

検索